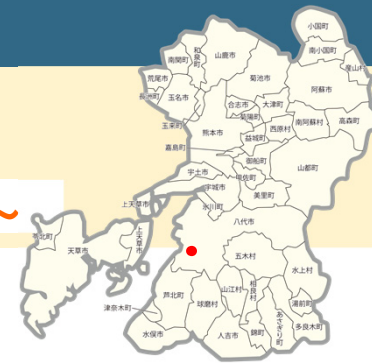


二見野田崎地区 (八代市)

令和の時より、未来に向けて ~安心して生活できる地区を目指す~



ビジョンの概要

地区の課題

- ・高齢化による農業担い手・後継者の減少
- ・農作業機械の老朽化による作業効率の低下
- ・ほ場及び耕作道が狭いため、作業効率が低くなる
- ・1ほ場あたりの面積が小さく、作業効率が低い
- ・農作業環境整備ができておらず、日照等に支障
- ・鳥獣被害等による作付け意欲の低下・集落機能が低下し、集落存続の危機

ビジョン策定のプロセス

地域の現状把握、危機感の共有

地域の現状を把握し、「このままでは耕作放棄地ばかりになってしまい、担い手もいなくなる」という危機感を共有。

ビジョン

地区の目指す姿

(1) 基盤整備等の実施

- ①作業道を整備し、農作業の負担軽減を図る。
- ②区画拡大、石積補修を行い、作業効率の向上、作付面積の拡大を図る。

(2) 農作業環境の向上

- ①耕作道回りの樹木等を伐採し、景観維持、作業効率向上を図る。

(3) 鳥獣害対策の実施

- ①電柵、ワイヤーメッシュ等を設置し、鳥獣害の軽減を図る。

(4) 高収益作物の品質向上及び新規高収益作物の導入

- ①土壌分析等を実施し、なすの品質向上を図る。
- ②新規高収益作物の試験ほ場を設置し、検討を行う。

(5) 機械の共同利用組織の設立

- ①オペレーターを育成し、後継者が残る仕組みを確立する。
また、若手農業者と高齢農業者の役割を分担し、
全員参加型の組織を作る。



現地検討会で現状・課題を明らかに

課題解決のための具体的方策を検討する際、「継続していく」ことを軸に、現実的に実現可能なビジョンを検討した。
基盤整備が必要な場所は、現地を見ながら検討。一つ一つの課題や解決策がより明確になり、それを全員で共有できた。

成果目標

- ①基盤整備を行い、水稻を作付けし規模拡大を図る
- ②なすの品質向上、新規作物導入で所得を確保する
- ③共同利用組織の設立により、コスト及び作業負担を軽減し、景観を維持する

合意形成

ビジョンの大きな柱である農業機械共同利用組織の設立を中心に、メンバーの意見をまとめた。最初に危機感の共有を行ったことで、目標が明確となりスムーズに合意形成を行うことができた。

具体的取り組み

(1) 基盤整備等の実施

- 作業道を整備し、高齢化が進んでいる当地区での農作業の負担軽減を図る
→作業道2か所計約70mの作業道を整備。作業効率も向上した。
- 区画拡大、石積補修を行い、作業効率の向上、作付面積の拡大を図る。
→1か所の区画拡大、5か所の石垣補修を行い、負担の少ない農作業ができる環境を整えた。



(2) 農作業環境の向上

- 耕作道路回りの樹木、竹等を伐採し、景観の維持、農作業効率の向上を計る
→樹木等の伐採で農作業の環境が改善。伐採した竹を浄化剤や竹炭として商品化したいと考えている。



(3) 鳥獣害対策の実施

- 電柵、ワイヤーメッシュ等を設置し、鳥獣害の軽減を図る
→5割で設置したが、隣接地にイノシシが入るようになった。



(4) 高収益作物の品質向上及び新規高収益作物の導入

- 土壌分析等を実施し、なすの品質向上を図る
→露地栽培だったが、安定した品質・出荷のためハウスに。
- 新規高収益作物の試験ほ場を設置
→スナップエンドウ、かぼちゃを試験的に栽培。

(5) 機械の共同利用組織の設立

- 機械の共同利用により、コスト及び作業負担の軽減を図る
→作業効率が格段に向上した。若手をオペレーターとして派遣。

成果

成果目標

- ①基盤整備により機能を向上させた農地や、現在維持管理されている農地に水稲を作付けすることで規模拡大を図る
- ②高収益作物（なす）の品質向上及び新規高収益作物の導入により所得の確保を図る
- ③共同利用組織の設営により、コスト及び作業負担を軽減し、集落の景観を維持する。

結果

- ①区画拡大（1か所）・石積補修（5箇所）・作業道（2カ所）の設置等を行い作業効率化。
- ②なすの品質向上・安定供給が可能に。また冬期の新規高収益作物もかぼちゃやスナップエンドウを導入。
- ③野田崎町農作業機械利用組合を、平成31年4月設立。地区内外で環境整備に貢献している。

今後に向けて

高収益作物を自販する
仕組みづくり